

おわりに

昨年の高草郡前半（賀露・湖山）の調査は、学生にとって大学周辺のいつもの風景を一変させるものであっただろう。無駄安留記の内容に沿って調査してみると、嵐ヶ鼻といった地形的なおもしろさを見せるものや、大野見宿禰命神社・賀露神社・湖山八勝という寺社や風景の名所地が江戸時代には少なからず存在していたことを知ることができたし、それに加えて吉備真備伝承や和泉式部伝承という根強い伝承がいまだに存在していることにも驚かされた。

そして今年度は、高草郡の後半である。調査範囲から考えると、昨年の三倍以上となり、実地調査をどのように進めるかが課題であった。今年度の実地調査で画期的なことは、大学の中型バスや民間バスで移動することが可能だったことであろう。年々無駄安留記隊の人数が増加していくなかで、公用車の限界を感じてきたところだったので、この点は大きな改善であった。湖山池周辺、吉岡温泉、千代川沿いと可能な範囲で無駄安留記の足跡をたどることができた。以下五点にわけて総括してみたい。

今年度の高草郡後半を通じて特筆すべきところは、この高草郡が戦国時代の戦場であり、その拠点となった城跡が多いことであろう。無駄安留記が取り上げた城跡は、天神山城、葛籬尾砦（防己尾）、箕上山、玉津城である。担当してくれた友森君・濱田さん・野崎君・出口君の文章からは、不十分な点もあるかもしれないが玉津や湖山池周辺あたりが戦国期鳥取の戦略的な拠点になったことが表現できているように思う。

二点目として、今年度も著名な縁起を残す寺社や名所が多かった。無

駄安留記が取り上げたのは、猫薬師、山王祠、不動ヶ崎、座光寺、吉祥寺、吉岡温泉、朝日寺である。担当してくれた田中さん、太田さん、天川君、谷川さん、蓮佛さん、清水さん、植田さんの文章からは、地域に暮らす人びとと信仰の関係がよくわかる。なかでも、猫薬師や座光寺、吉岡温泉に伝わる伝説や縁起には興味を持って取り組んでくれたことが大きな収穫であった。なお、座光寺のなかに出てくる『因幡堂縁起絵巻』については、付録二として、京都市因幡堂蔵のものではなく座光寺に残されていた貴重な絵巻を収録することにした。そして吉岡温泉についても鳥取市教育委員会の佐々木孝文氏に協力していただき、宝泉寺蔵『吉岡温泉記』の翻刻を付録三としてつけた。両資料が今後活かされることを期待したい。

三点目、気づいた点としては、湖山長者、産見長者に関わる伝承が多く残っており、無駄安留記の著者も意識的か、無意識的にか触れていることである。猫薬師のところに登場し、本文には屋敷跡もあり、さらに牟塚のところで登場した。西君の調査によれば、「すくも塚」の地名や伝承は意外と周辺地域にも存在していることが判明した。すでに無駄安留記隊では、これまで調査してきた摩尼山のところでも触れ、その他岩井の細川長者の話も存在している。これは非常に興味深いテーマである。今後の調査課題の一つとなろう。

四点目として、地名の重要性も認識させられた。まず、大寺屋・糕塚・横枕。なぜこんな地名が付いたのか誰しも不思議に思う謎に、酒井さん・西君・植田さんが取り組んでくれた。課題も多いが、ある程度あ

きらかになったのではないだろうか。そして何と言っても、洗濯島。白兎海岸の隠岐島のような知名度はないが、このユニークな島名を、絵図と地図から明らかにしようと思ひ中村君の姿をここに記して置きたい。地名が消えていく昨今、地名の由来について無駄安留記を手掛かりに明らかに出来たのは大きな成果の一つと言えよう。

最後に、戦国時代の名残と民間伝承をつなぐ立見峠である。担当してくれた丸尾君は「怪異」として説明してくれたが、無駄安留記のなかからは山名氏の亡霊から「おとん女郎狐」へと移り変わっていく地域の伝承の姿が垣間見え、豊かな民衆の意識を彷彿させるものとして注目されよう。

以上、大所帯ながらも無駄安留記隊のメンバーは、一人ひとり熱心に取り組んでくれたと思う。最後に、伝説や城跡調査でお世話になった鳥取県史編纂室の岡村氏、檜村氏、湖山の調査で協力していただいた田中武子氏、中島氏、村上氏、吉岡温泉の調査でお世話になった宝泉寺御住職松本道宏氏にはこの場をかりて御礼申し上げます。

（岸本 寛）

2009 年度 無駄安留記隊 隊員

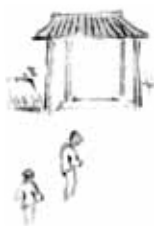
天 川	学 (あまかわ まなぶ)	鳥取大学地域学部地域文化学科
植 田	有佳 (うえた ゆか)	〃
太 田	志津香 (おおた しづか)	〃
酒 井	美香 (さかい みか)	〃
清 水	浩美 (しみず ひろみ)	〃
田 中	歌織 (たなか かおり)	〃
谷 川	美香 (たにがわ みか)	〃
出 口	大介 (でぐち だいすけ)	〃
友 森	太一 (とももり たいち)	〃
中 村	勇太 (なかむら ゆうた)	〃
西	康彦 (にし やすひこ)	〃
野 崎	祐太 (のぎき ゆうた)	〃
濱 田	咲 (はまだ さき)	〃
丸 尾	真弘 (まるお まさひろ)	〃
蓮 佛	杏奈 (れんぶつ あんな)	〃

茨 木	透 (いばらき とおる)	鳥取大学地域学部地域文化学科教員
岸 本	覚 (きしもと さとる)	〃
田 中	仁 (たなか ひとし)	〃

無駄安留記隊報告書 2009

鳥取大学地域学部地域文化学科 2009 年度地域文化調査

2010 年 3 月 31 日 発行 (非売品)



編 者 田 中 仁
茨 木 透
岸 本 覚

発行所 鳥取大学地域学部地域文化学科
〒 680-0945 鳥取市湖山町南 4-101

<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/ibaraki/mudaaruki/>

印 刷 中央印刷株式会社